

# Information

## 大学院言語文化研究院箱崎分室における全学向け外国語クラス

平成18年度 後期時間割

詳細は<http://www.flc.kyushu-u.ac.jp/~ilcbr/>

	月	火	水	木	金
1 8:40 ~ 10:10		英語スピーチII (稲葉)	英語 エッセイ・ライティングI (フイン)	英語 リーディング・セミナーII (小松)	実用英語演習I (アンスコム飯野)
2 10:30 ~ 12:00		英語リスニングI (稲葉)	時事英語購読 (大谷)	英語会話II (アンスコム飯野)	英語 ライティング・セミナーII (ユエー)
		時事ドイツ語 (岡野)		入門フランス語 (羽賀)	
3 13:00 ~ 14:30	速修ロシア語II (佐藤)		フランス語 作文コース (田中 陽子)	速修インドネシア語II (遠藤)	
4 14:50 ~ 16:20	速修イタリア語II (スリス)		速修中国語II (李)		
			ドイツ語 オーラル・セミナーI (田中 俊明)		
5 16:40 ~ 18:10	英語 リスニング・セミナーII (アンスコム飯野)	ドイツ語 コミュニケーションII (カスヤン)	英語会話II (アムストロング)	英語 エッセイ・ライティングII (ファネル)	フランス語実用会話 (ホスーシユ)
		朝鮮半島の言語と文化 (松原)	速修ドイツ語 (鈴木)	表現スペイン語 (フジヨシ)	
			中国語口語I (李(麗))		
6 18:30 ~ 20:00	英語リスニングII (アンスコム飯野)		実用英語演習II (アムストロング)	英語会話I (ファネル)	
			言語コミュニケーション論 (オーガナイザー:太田)	時事スペイン語 (青木)	

## 言語文化研究院講座紹介

平成18年10月1日付けで、言語文化研究院の組織が以下のように改組されました。(2部門4講座)

### <言語環境学部門>

人間の社会生活の基本である言語と言語活動、人々の生活を取り巻く言語環境を科学的、総合的に研究する部門です。

#### 言語教育学講座

特に教育の観点から言語および言語環境の研究・教育を行い、その研究成果を教育の実践に移すことを目的としており、第二言語習得論、言語教育論、外国語教授法などを研究します。

#### 言語情報学講座

広い意味における言語情報と情報の媒体であるメディアの総合的な研究を行います。

### <国際文化共生学部門>

多文化共生を理念に掲げて、国際協力の研究と総合的な国際文化研究に取り組む部門です。

#### 国際共生学講座

国際協力に関する問題を分析・検討し、国際協力のあるべき姿とその理論、方法論を研究するとともに、今後国際協力においてさらに重要性を増す言語的・文化的側面から文化共生の可能性を研究します。

#### 国際文化学講座

文化の動態と多元性、文化間の接触といった観点を重視し、異なる地域文化の諸相を総合的・学際的に研究します。

# 言文だより

2007年  
No.9  
3月発行

九州大学大学院言語文化研究院

言語文化研究院広報委員会 genbun@flc.kyushu-u.ac.jp

## 英語標準化テスト実施結果

九州大学では平成17年度から大学経費で1年生全員に英語標準化テストを受験させることになりました。平成18年度は7月18、19、22日に全学部の1年生の92%がTOEFLを受験しました。TOEFLとは、国際的に最も有名な英語のテストで、米国やカナダを始め広く英語圏の大学や大学院に入学を希望する外国人の英語力を測定するためのテストです。結果は、以下の表の通りです。

平成18年7月実施のTOEFLの結果

点数	有効受験者数	割合	
600以上	7	0.3%	262名 (10.7%)
550 - 599	30	1.2%	
500 - 549	225	9.2%	
450 - 499	1141	46.8%	1141名 (46.8%)
400 - 449	899	36.8%	1037名 (42.5%)
400未満	138	5.7%	
平均455.5点	計 2440名		

セクションごとの平均点

リスニング	文法・表現	リーディング
44.5点	45.9点	46.3点

一般的には、600点以上が北米の大学院、550点以上が北米の大学への入学条件になることが多いようです。しかし、専攻によっては550-599点でも入学できる大学院があり、英語研修を受講するなどの条件をつけて入学を許可することもあります。同様に、専攻によっては500-549点でも入学できる大学があり、また英語研修を受講するなどの条件をつけて入学を許可することもあります。この表のデータを見ると、1年前期終了時で、約10%の学生が、英語圏の大学、大学院に留学可能な英語力を持っていることがわかります。これは、入学後数ヵ月で、TOEFLの問題に接するのが初めての学生がほとんどである中では、まずまずの結果であると言えるでしょう。

## 新カリキュラムについて

### <英語>

今年度からの新しいカリキュラムのもとで実施されている英語教育の目標は、Academic English Writingの習得です。九大生の多くは、将来、専門分野に関する英語論文を書く必要があるため、入学当初の2年間でその基礎を与えようとするものです。Academic English Writingは、英語IIAおよび英語III Aで教えますが、その他の科目である英語I、英語IIB、英語IIIBもAcademic Englishと関連する項目を教えることになります。これまでの英語教育では、とすれば、科目間の関連が薄くなりがちでしたが、新カリキュラムでは科目間を有機的な関連で結び付けようとするのが特徴です。そのために、教員間の授業に関する情報交換も以前よりはるかに活発です。

### <初修外国語(ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国語、スペイン語)>

初修外国語も英語の改革にあわせて改革を行っています。理念的には英語の国際支配に対して、諸外国語の独自性を学びつつ、世界をより客観的に眺める視点を養い、懐の深い国際人の養成を目指しています。基本的にはテキストを用いて読み、聞き、話し、書く基礎能力の涵養を行います。実践的には各外国語の教師の工夫により、ますます便利なツールになっていくインターネットを取り入れた授業を行ったり、発話に重きをおいた授業を行ったりしています。

## 高大連携オープンクラス開催報告

平成18年11月9日言語文化研究院において言語文化科目英語のオープンクラスを開催しました。これは過去3回の高大連携懇談会における提案を具体的に実践したもので、福岡、熊本、長崎、鹿児島に進学校9校から11名の英語教諭に参加していただき、授業参観と懇談会を行いました。

懇談会には高大約30名の教員が出席し、まず言語文化研究院側から九大における英語教育のカリキュラム改革、そして旧七帝大における英語教育の現状について説明があったのち、各教諭から授業の感想、高大連携のあり方等について意見を出していただきました。授業内容や九大の取り組みについては、おおむね肯定的な意見が多かったものの、「高校の英語教育に何を求めるのか」、「九大はどういう学生を育成しようとしているのか」等、核心的な質問が提出され、白熱した意見交換が行われました。

今回のオープンクラスの開催は、中高における新カリキュラムの導入による教育内容の変化に柔軟に対応するために、高大の密接な連携を図るという趣旨で開かれましたが、特に高校教諭による大学の授業参観は当研究院としては初めての試みであり、教員の啓発や授業技術の向上の面で得るところの多い試みだったといえます。

## ドイツ語のIT授業

言語文化研究院では、IT授業用の教材開発に取り組んでいますが、今回はその中から「CALLドイツ語」と「Web Drill」というドイツ語担当者による2つの事例を紹介します。

九州大学と東北大学の教員がメディア教育開発センター(NIME)から資金の提供を受けて開発してきた



ドイツ語のオンライン・コンテンツ、「CALLドイツ語」(http://webocm.rc.kyushu-u.ac.jp/call)が完成しました。このコンテンツは文法の解説、それに関連した練習問題およびFLASHムービーを用いた会話スキットから構成されており、ブラウザさえあれば利用できる、総合的なドイツ語学習環境です。4月から一部のドイツ語の授業ではこのコンテンツを用いて授業が実施される予定であり、画一的な授業ではなく、受講生の意欲と能力に応じたきめの細かい授業が展開されることが期待されています。

問い合わせ先：okanossm@flc.kyushu-u.ac.jp(岡野)

Web Drillは九大情報基盤センターで開発された外国語学習用eラーニングシステムで、Webブラウザとインターネットに接続できる環境があれば、いつでもどこからでも文法や語彙のドリル問題を自習することができます。市販の教材とは異なり、授業内容やクラスの進度に合わせて教師が自由に問題を作ることができるのが特徴で、問題形式の自動変換機能により、多様な問題が簡単かつ大量に作成できます。さらに、選択式の問題はもちろん、記述式の問題でも学生の答えに対して適切なフィードバックが行え、不正解の問題のみを再出題する機能も持っています。平成18年度から一部のクラスで使用しつつ改良を重ねてきましたが、平成19年度にはさらに多くのクラスで利用される予定です。



問い合わせ先：tabata@flc.kyushu-u.ac.jp(田畑)

## 平成18年度P&P採択状況

タイプ	研究代表者	研究題目
B-1	大谷 順子	アジア地域における人間の安全保障の観点による社会開発に関する新たなフレームワークの研究
C	曹 美庚	IT技術を活用したアジア言語教育環境の構築